

予防接種を 受けられないとき

予防接種は体調の良いときに受けていただくものですが、逆に心配しすぎてなかなか受けられないこともあります。

厚生労働省のガイドラインでは予防接種を受けられるかどうかの見方を、「予防接種をおこなってはならないもの」と「注意を要するもの」に分けて整理しています。

基礎疾患がある場合などは、主治医と相談をしながら受けるようにして下さい。



予防接種の注意・お願い

予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

- 受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知っていてほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考にしてください。分からないことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。
- 健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。
- 前日は入浴して、体を清潔に。
- 予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。
- 母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）
- 接種の会場で、体温を測り、記入します。
- 予期できない重篤な副反応が、注射のあと15～30分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見ていてください。
- 接種の当日は、入浴をふくめていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。



予防接種を受けられないとき

発熱しているとき

接種する場所で体温を測り、37.5度以上のときには「発熱」と考えて接種をしないのが普通です（とくに集団接種のとき）。

ただし、乳幼児で食後や運動後などでは、体温が高めになり、37.5度以上になるときもあります。また、学童などでは、37.4度以下でも、熱のときもあります。

その子の平熱をしつづけておき、いつもの様子とかわらないか、見てあげてください。

重篤な急性疾患

常識的に、重い病気にかかっていたり、治りかけのときには、無理に接種をせず、機会を改めて、体調の良いときに受けてください。

軽い病気であれば、かまわないということになりますが、病院に受診中であれば、主治医の先生に相談してみてください。

登園できる程度の軽いかぜ、下痢ぎみ（ポリオは除く）ぐらいでは問題に

表 予防接種不適当者および要注意者

- | |
|--|
| 1. 予防接種を行ってはならない者(法律) |
| (1) 明らかな発熱を呈している者 |
| (2) 重篤な急性疾患に罹患していることが明らかな者 |
| (3) 接種しようとする接種液の成分により、アナフィラキシーを呈したことが明らかな者 |
| (4) 麻疹、風疹、ポリオの予防接種では、妊娠していることが明らかな者 |
| (5) その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある者 |
| 2. 接種の判断を行うに際し、注意を要する者(通知) |
| (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血管疾患、発育障害などの基礎疾患を有することが明らかな者 |
| (2) 前回の予防接種で2日以内に発熱のみられた者、または、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある者 |
| (3) 過去にけいれんの既往のある者 |
| (4) 過去に免疫不全の診断がなされている者 |
| (5) 接種しようとする接種液の成分によりアレルギーを呈する恐れのある者 |

なりません。突発性発疹（とっぱつせいほっしん）も、発疹がきえ、具合が良くなつていれば、接種にさしつかえありません。

アナフィラキシー、アレルギー

予防接種をしようとしているワクチンの成分に対して、アレルギーの反応のおきることが予想されるときには、慎重に接種します。

以前、同じワクチンで具合の悪くなったことがあれば、担当医に相談してください。

（アナフィラキシーとは、アレルギーのさらに重症なもので、血圧低下、呼吸困難など、命にかかわってきます。）

基礎疾患

慢性の病気をもっていても、それが落ちついた状態なら、予防接種にさしつかえることはあまりありません。主治医の先生と相談しながら、受けください。

けいれん

以前の規定では「1年以内にけいれんをおこしたことがある」と接種を受けられませんでしたが、新しい考え方では一律に禁止はしていません。

子どものけいれんで最も多いのが「熱性けいれん」ですが、このうちで「たちが良い（単純型）」ものは、どの予防接種もかまいません。「たちが悪い（複雑型）」ものやそのほかのけいれんについては、主治医の先生に判断してもらってください。

予防接種は、受ける子どもの体調の良いときに受けて下さい。「集団接種」では、日程が決められているために無理をすることもありました。普段の様子をよく知っているかかりつけの小児科医のもとで受ける（「個別接種」）ようになってきたのは、今や時代の流れです。